

科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術会議有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成 24 年 6 月 21 日（木）10:00～11:30
- 場 所 合同庁舎 4 号館第 3 特別会議室
- 出席者 後藤副大臣、園田大臣政務官、相澤議員、奥村議員、今榮議員、白石議員、青木議員、中鉢議員、大西議員、倉持統括官、中野審議官、吉川審議官、大石審議官

○ 議事概要

議題 1. 国家戦略としての科学技術イノベーション政策について（その 5）

○相澤議員 第 1 の議題は国家戦略としての科学・技術イノベーション政策について（その 5）になります。お手元の「調－1」という資料番号が付されている工程表がこれまで各議員からいただいたご意見を最大限生かしつつまとめた内容です。前回と大きく異なっているところは三本柱としたということと、「目指すべき姿」が大枠の括りとしてこういう形になったところです。

それから、総合科学技術会議としては 2015 年度の具体的な目標、ここのところが非常に重要であります。それから、更に 2020 年度の具体的な目標ということでもあります。この大枠を中心に整理してきたわけでありますが、十分にご意見をされていないのではないかという部分もあるかと思えますけれども、このような形で整理いたしましたので、そして関連個所の折衝を重ねた上で、本日これをファイナルバージョンとさせていただきたいということで提示させていただきました。

細部について本日議論をする余裕がないという段階にもなっておりますので、これをご承認いただきつつ先へ進みたいと思います。まず事務局からもう一度総括的に説明していただきたいと思えます。

<内閣府 吉川審議官から説明>

○相澤議員 このような形で一応まとまったわけでありませんが、個別についてはこれ以上繰り返しますとなかなかまとまりませんので、こういう包括的なまとめ方ということで、ただそれについても特段のご意見があればここで伺いますが、いかがでしょうか。

○後藤副大臣 気になる点が 1 点だけあります。科学技術イノベーションに伴う人材育成という、そもそもの問題意識の中で今回の工程を良く具体化していると思っているのですが、大学教育までで閉じているように思いました。国の研究機関であるとか、民間の研究機関であるとか、大学・大学院教育を経て、その後の研究人材との関係がないので、これはこれとして大学までの 1 つのステージであり、「策定に当たって」と一番下にあるのですが、女性の活躍等々漏れているものの他に、大学教育以降の人材の交流や人的資源をどう配置し、今独法はまとめていくという集約化の方向に向かっているはずけれども、そういう問題意識と絡めて、第二ステージにどうもっていくかというのが、この工程表だけでは第一ステージで閉じているような感じが非常に強いので、それは引き続きできるだけ早くまた形を作っていくと、このイノベーションも入った中での人材育成というところには少し不十分さが出てくることを若干懸念しますので、この「策定に当たって」の「なお」以下のところを是非工夫していただいた方がいいのかなという指摘だけさせていただきたいと思えます。

○相澤議員 ご指摘のとおりだと思います。ただ 1 点、第 2 の柱であるグローバル研究型大学院等の

機能強化、この中の「目指すべき姿」の後半部分は実は研究開発法人、産業界との人材の流動化ということに対応している部分です。

それから、2015年度の具体的目標の一番下のところに、研究型大学等を中心とした世界的な産学官連携拠点を形成というのが、具体的には今既につくばに形成されているTIAのようなものを想定しているということで、部分的ではあるのですが入っております。ただ、これでは十分ではありませんのでご指摘のとおり1枚紙の最後にその部分を加えるようにしたいと思います。

○中鉢議員 少し気になるのは、例えば一番初めのグローバルに活躍できる人材の育成、残念ながら達成手段が「促進」であったり、「展開」であったり、「推進」であったり、「支援」であったりとなっています。支援と促進で、なぜ目標に達成するのが疑問です。その間いろいろ書いてありますが、やはり推進です。推進をやると目標に達するのかなと。PDCAサイクルを回すには不十分な書き方になっているのかなと少し気になります。

また、達成手段として分野別質保証や評価を通じた教育の質保証向上の促進ですが、3年間やった結果としての具体的な目標は試行であり、その5年後に確立だと。少し気になるのは、スピード感とおっしゃいましたが、5年、8年かかってやることを改革と言わないのではないかなと。世の中の変化のスピードを考えますと、おそらく8年後にはまた新たな改革が必要になっています。また、各々の手段が2015年に同時にゴールインする必要はないと思います。なぜ15年まで待たなければいけないのかと。すぐできるものを待っている必要はないと思います。

それから、このプランで12年度以降、PDCAサイクルを回せますかと。この表現では回せません。「促進」をやっています、「支援」しています、「展開」していますと。12年度、13年度、14年度、これからの課題になるかもしれませんが、誰がいつまでに何をどの程度するのかを明記しないとPDCAを回すことはできません。さらに、それぞれのあるべき姿については、第3期、第2期においても多かれ少なかれ言及されています。今回、12年度が起点にされたムービングターゲットになっている印象を与えることは得策ではないと思います。この辺の工夫が必要だなと言う感じがします。

○相澤議員 ご指摘の点はもっともでございますけれども、この工程表の位置付けは、国家戦略としてどういう方向に施策を打っていくべきかということの提言になるわけです。したがって、今回は赤で囲ってある部分が大きな国の方向性ということです。ですから、確かに目標のところになりますと、そここのところがまばらである。ただ、この中間のところは工程表だからタイムスケジュールとしてこういうステップでいくのだということを示しているわけですが、これは関連府省が今後、国の戦略方針に基づいて具体的な政策を策定していくことになると思います。ですから、そこまで厳密にここで規定することではないのではないかと思います。

○中鉢議員 例えば若手研究者の海外派遣の促進では手段から目標まで線だけを引っ張っています。工程表というのはそういうものなのかどうかということと、達成手段で書いている問題と、目指す目標の問題とのギャップは少し理解しにくい点があります。例えば「テニユアトラックを普及・定着させる」というのが手段で、「若手研究者の3割相当を目指す」というのが目標になっています。この方策と目標の場合、3割程度が手段であって、普及・定着は目標なのではないかと考えます。目標と言う場合、12年度に1割、その次に2割、3割と上がって行って、最終的に普及定着の度合いがあるというのであれば分かりますが、「目指す」ということが最後になっているというのは違和感があります。

○相澤議員 例えばテニュアトラックは既に進めている施策です。その施策の目標が3割ということになっています。そういう意味で達成手段、これは政策に相当するところですが、ここに経緯にばらつきがあることが違和感を生じているところだと思います。

○中鉢議員 テニュアトラックをもうやっているということでしたら、それは手段にはなり得ず、実施の程度を明確にすべきだと思います。

○相澤議員 テニュアトラックは既にスタートしていて、達成目標はその程度になります。そういうものもあれば、これから始めなさいよと指摘しているものもあるということで、それがなかなか整理されていない段階に見えるということだと思います。

○大西議員 「策定に当たって」の1枚紙の(2)は「グローバル研究型大学の機能強化」となっています。本文の方は「大学等」と「等」が入っています。だから「等」を入れるか、加えて、もし意図を明確にするならば後段の方で研究機関、大学以外の研究拠点というのも書いてあるので「・研究拠点」という表現にすれば、(2)については大学以外のことも言及しており、(1)と(3)より(2)は少し幅が広いという意図が伝わると思います。

○相澤議員 まとめる段階での主眼は「グローバル研究型大学等の機能強化」ですから、柱の方の名称はこの方がすっきりしているかと思います。1枚紙を今のご指摘のとおり「等」を入れるという形で、そして研究機関等については別途一番後のところにするという形で対応させていただきたいと思います。

○中鉢議員 もう1つ、スピード感の話です。以前、「国民視点で」ということをお話ししたと思います。若手研究者がこれを見たとき、例えば日本人の海外長期研究者の2020年度の目標値を見て胸がワクワクするかどうか。遅いと見ると早いと見るか、私は遅いと見るのではないかと思います。なぜこれほど時間がかかるのだろうか。明日にでもということですが、期待はすると思います。若手研究者の海外派遣の促進、あるいはフェローシップ、テニュアトラックがどうしてこれほど時間が掛かるのだろうか。多分真意は前倒しでできるものはやっていくと思いますが、スピード感という点では、いろいろ批判されかねない内容になっています。内容、方向性については正しいと思います。

これをスピード感をもって実施してってもらいたいのですが、緊急性があまり感じられません。グローバルな人材を育成するのにあと8年かかる、9年かかるという言い方は一考すべきだと思います。スピード感を何らかの形で出していただきたい。

○相澤議員 この辺りになりますと財政当局とのすり合わせになってくるかと思います。一気にできるのではないかというご指摘ですが、これはどうしても財政問題が出てくるわけでありまして、そこまでの資金投入をすぐできるかどうかに関することだと思います。

テニュアトラックで3割を目指すというのも、どうしても財政基盤が必要でありますので、そことの兼ね合いということもあります。そういうような個々の目標値については我々の意図するところはそういうスピード感を持ってやるということをお願いしつつ、そこでの調整というのがどうしても働くというようになってくるのではないかと思います。ただ、こういうことが国家戦略会議の強い方向性として出された場合には、そのところも動き得るところではないかと思っています。

○中鉢議員 目標設定については、またどこかで調整が必要だとは思いますが、方向性については皆さん合意できるものだと思います。財政の問題があるということですが、非常に大事なことで早くやって欲しいです。

○相澤議員 今後のことですが、これは総合科学技術会議に投げかけられたことであり、基本計画に記載されている内容をベースにして工程表を作成するように国家戦略会議から委託されていることです。したがって、これに対してこういう方向で、ということ強く出し、そしてこれが国家戦略会議で大きな方向性として認められれば、その後、財政問題は動いていくと思われませんが、現段階でも多少考慮していかないと実現性のないものを指摘することにもなりますので、現段階では先ほど申しましたように関係機関とのすり合わせでギリギリのところ、という形であると理解していただければと思います。あえて申し上げれば財政のところには我々が枠をはめているわけではありません。

それでは、ただいまご指摘いただいたことで大西議員がご指摘になった1枚紙の方の修正はさせていただきます。それから後藤副大臣からご指摘いただいた点につきましても修正させていただきます。ということで、この工程表をご承認いただけますでしょうか。

それから1枚紙はまとめてございまして、先ほどの修正をして出させていただきます。

この取扱いでありますけれども、これは古川大臣から国家戦略会議に提示していただくというのが筋かと思うのですが、この辺については事務局からご説明いただけますでしょうか。

○事務局（吉川審議官） まだ具体的な日程はセットさせてはおりませんが、4月の段階では6月中に開催される国家戦略会議において古川大臣からこの工程表については提出するようという指示があったものですので、現在クレジットは付けておりませんが科学技術政策担当としての古川大臣から提出することになるのが自然な形だと思います。

また、日程等が固まりましたら先生方にもご紹介申し上げたいと思いますけれども、国家戦略会議に古川大臣の名前でお出しするというこれからのスケジュールになるということでご了知いただければと存じます。

○園田政務官 この総合科学技術会議あるいは古川大臣以下、私ども科学技術担当の政務三役としては国家戦略としての目標を、今課題が何であって、どういう手段を用いてその課題を解決していくか。また第4期基本計画に則って、その1つひとつの課題をどう克服して、そしてまたこの先の国家戦略としての科学技術の目標をどう設定しようかといったところで、まずは国家戦略会議に対して工程表を付けて提示をしていこうということでもあります。

私の解釈になりますけれども、若手研究者の研究の分野において線が引いてあるということですが、私も当然2020年度の具体的問題、中期的な目標というものをここに定めていく。しかしながら、ここで線を引いているのは今やっている部分をいかに促進・加速させていくか。あとは国家戦略の大きな流れの中で目標値が決められれば、それに従ってそれぞれの関係機関、関係府省等がしっかりとその国家戦略に向けて、これからどういう形で着手していこうかが具体的にになっていくのだろうと思います。

その中において、お金のかかる部分もひよっとしたら出てくるわけございまして、そのときには関係府省がしっかりと財務当局とも相談をさせていただきながら、この部分は即効性が出てくるといったところは当然その重要性を鑑みれば財務当局からも理解が得られやすい状況になっていくのではないかと期待はあっております。例えばテニューアトラックにおいても3割相当を目指すといったところで、では1割ずつ上げていくのかということではないのではないかと。

がら全体的に底上げしていくといったときに、どういう配分でやっていけば、それが効率よく効果的にその結果を成し遂げられるものであるかどうか。それはきちっと関係府省が主体となって検討をしていただけるものではないかと考えておりますので、決して配分を今から考えてのということではないのではないかと考えております。

いずれにしてもこの工程表をしっかりと国家戦略会議にご提示をさせていただいた上で最終的な政府としての方針が決定されていくものであると考えておりますので、その中でご意見をいただいたものは私どもとしてもしっかり受け取っておりますので、それを会議の場でも大臣なり私どもからしっかりお伝えできるように全力をかけて頑張りますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○事務局（中川参事官） ただいま政務官あるいは吉川審議官から申し上げましたとおり、事務的には国家戦略会議が開催されたときに科技担当大臣名でご報告する、これが一番オーソドックスな方法かと思っておりますが、4月の国家戦略会議のときに野田総理からの宿題という言われ方は、こういった世界の人材輩出国として成長を続けるための具体的な工程表を古川大臣の下で6月を目途に明らかにしてほしいということでございました。

と申しますのは、国家戦略会議の開催見込みがまだはっきりせず、いつ、どのような形で開催されるかわかりませんので、結果的にどういう形で反映されるようにしていくかは、色々なケースがあり得ます。その辺はまた報告させていただきます。

（以上）